

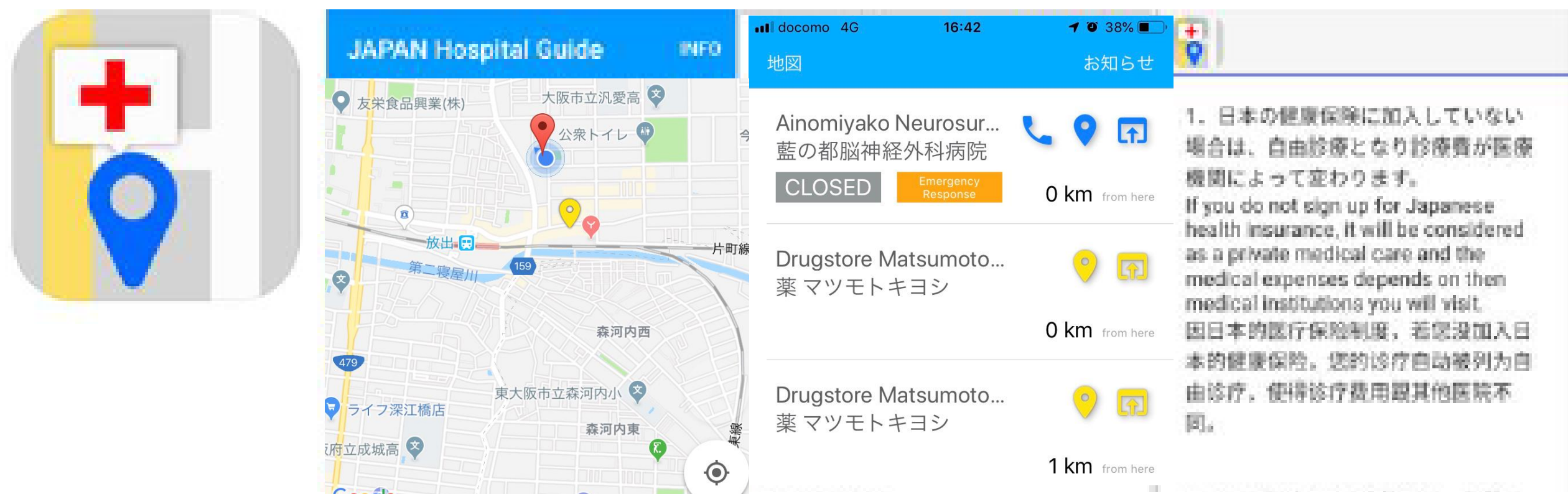
GPSで周辺情報を表示 全国対応の医療機関検索アプリ「JHG(ジャパンホスピタルガイド)」

訪日外国人旅行者の増加に伴って医療機関を訪れる外国人も増加することから、厚生労働省では医療機関の外国人受入れ体制調査を実施、観光庁では「訪日外国人旅行者受入医療機関」を取りまとめて、日本政府観光局(JNTO)のサイトに日・英・中(簡・繁)・韓の5言語で掲載している他、経済産業省では医療機関向けに、外国人患者の受入れ手順や多言語での同意書テンプレートなどを作成・公開するなど、政府各機関でも取組が進められています。

『訪日外国人と医療機関の間の不備・不便・不満を緩和する』を目標に医師らによって設立された一般社団法人訪日外国人医療支援機構では、主に外国人向け医療保険の開発・普及や、医療通訳者と外国人受入医療機関のマッチングなどを行なっています。その事業の一環として、外国人受入可能な最寄りの医療機関を検索できるアプリ「JHG(ジャパンホスピタルガイド)」を、2017年11月からリリースしました。

アプリはiPhone とAndroidの両OSで、日・英・中(簡)に対応。事前の実態調査などで、外国人にとっては「今自分がいる場所の地名が分からず、都道府県名を選択する方式では検索ができない」という問題があったことから、メイン画面ではGPSによって今いる場所の周辺の医療機関が地図上に表示されるようになっています。マーカーをタップするかリストから医療機関名を選択すると、診療時間や科目、救急対応の有無、対応可能言語などの詳細情報が表示され、「経路」アイコンタップで地図アプリと連動した経路案内がされるほか、「電話」アイコンから電話をかけることもできます。また、外国語に設定された端末でも医療機関の名称は日本語が併記されるので、タクシーで向かったり日本人に道を尋ねる場合にも、画面をそのまま見せて伝えることができます。

起動時には「お知らせ」として、日本の健康保険と自由診療、初診料等についての基本情報と、軽症の場合はドラッグストアでも対応可能なことが表示されます。地図上には医療機関が赤のマーカーで示されるのに加えて、黄色のマーカーでドラッグストアが表示されるので、状況に応じて選択できます。近年、外国人旅行者にも人気が高い大手ドラッグストアでは、外国語が可能なスタッフの採用や海外クレジットカードを対応可能とするなど、積極的な外国人対応が進められています。



リリース時点では全国295施設の医療機関が登録されており、うち234施設は英語対応可能、21施設は英・中での対応が可能とのこと。それ以外の40施設は通訳サービスなどの利用体制がある施設です。「大都市の情報は充実しているが地方の情報が得られない」という意見もあることから、47都道府県すべてについて、最低限でも1施設は情報を掲載していますが、今後も拡充していくために同団体のウェブサイト上では常時、外国人受入医療機関の登録を受け付けています。

また医療機関での言葉の壁解消のために本アプリ以外にも、事前に登録しておく外国人患者の来訪時に電話や無料通話アプリを通じて医師と患者の間に立って通訳する「エア医療通訳」事業や、医療通訳の紹介事業も行っています。

(平成29年度作成)

「JHG(ジャパンホスピタルガイド)」アプリダウンロード



Android版



iPhone版